

# ロボカップジュニア 2010 レスキューA・ルール

最終更新日:2009 年 12 月 15 日(火)

作成者: RCJ-2010 レスキュー技術委員会(テクニカル・コミッティ):

Damien Kee – Australia (chair)

Tiago Docilio Caldeira – Portugal

Carlos Cardeira – Portugal

Ashley Green – United Kingdom

Katsunori Mizuno – Japan

Kate Sim – United Kingdom

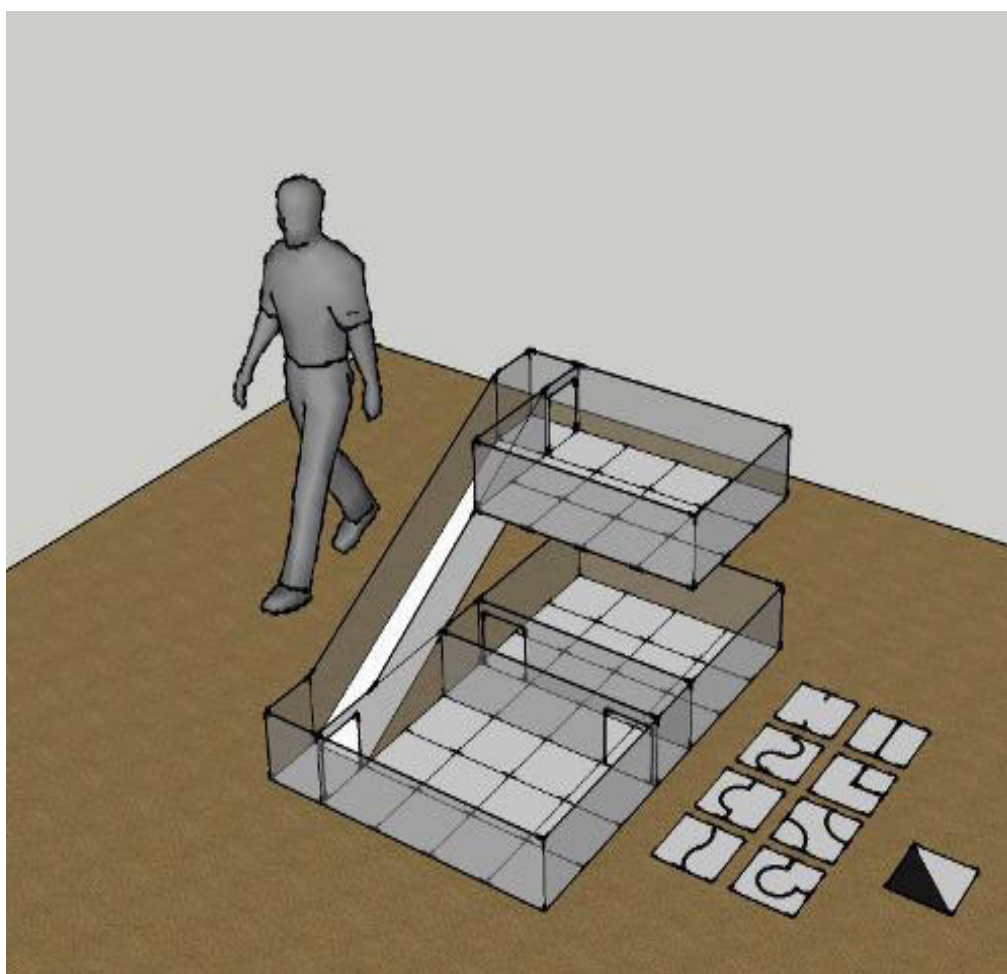
注:2009 年のルールからの変更部分は赤色で記載する。

## 1. アリーナ

### 1.1. 説明

1.1.1. アリーナはモジュールを組み合わせて作られる。各モジュールを建物内の1つの「部屋」とみなす。モジュールは(水平方向の場合は同じ高さになるように)並べて配置し、垂直方向の場合は積み重ねる。同じ高さに配置したモジュールは水平な通路で接続する。異なる高さに配置したモジュールは傾斜した通路または傾斜路で接続する。傾斜勾配は  $25^\circ$  以下とし、少なくとも高さ 10cm の壁がなければならない。レスキューフィールドとなる建物の作り方(図面)はこちらのサイトに掲載されている。

[http://rcj.robocup.org/rcj2010/rescue\\_suggestedBuildingInstructions.pdf](http://rcj.robocup.org/rcj2010/rescue_suggestedBuildingInstructions.pdf)



### 1.2. サイズ

1.2.1. 各モジュールの大きさは **1200mm × 900mm (47 インチ × 36 インチ)** で、30cm (12 インチ) の高さの壁が付いている。

1.2.2. 各部屋の基準位置(レスキューフィールド図面を参照)に2つの出入口を設ける。ロボットは一方の出入口から入って、もう一方の出入口から出る。

**出入り口のドアのサイズは 250mm × 250mm とする。**

### 1.3. フロア

1.3.1. 各部屋のフロアは明るい色にする(白色または白色に近い色)。

フロアは滑らかに仕上げるか、または床仕上げ材(リノリウムやカーペットなど)を敷く。

モジュール間の接合部分は最大 3mm までの段差が許される。

1.3.2. アリーナはフロアが平らで同じ高さになるように作る。

### 1.4. ライン

1.4.1. **300mm × 300mm のタイル**にロボットが辿るためのラインを黒色で引いて、フロアに敷く。

黒のラインは幅 1~2cm の標準的な電気(絶縁)テープもしくは印刷された紙などをタイルに貼り付けて迷路のように引かれる。

(上記図の格子線は参考であり、実際にはありません)

1.4.2. 黒いラインは各部屋の基準位置に設けられた出入口から入り、出ていく。

(部屋または傾斜路の)壁に沿って延びる黒いラインの直線部分に、**20cm** までの切れ目を設けることができる。

**1.4.3. 各ラウンド毎にタイルの置き方を変更するかもしれません。**

**1.4.4. タイルの性質上、各タイルの間に最大 3mm の段差や隙間があるかもしれません。**

**これらは意図的ではなく、主催者は可能なかぎりそれらを最小にするようにします。**

### 1.5. 障害物

1.5.1. 瓦礫などに見立てた「障害物」をアリーナに置くことができる(但し、通路や傾斜路には置かない)。

障害物は、避けて通るもの、乗り越えて通る減速バンプ、または乗り越えるか押しのけて通る比較的小さなものにする。

1.5.2. 障害物は煉瓦型の塊、ブロック、おもしろ、減速バンプ(直径 10mm のプラスチック製パイプまたは木製の丸い棒を白く塗ったもの)、または直径 3mm 未満の木製スティック(カクテルスティックやケバブの串棒)などで作る。

### 1.6. ゾーン

1.6.1. 黒いラインを最後の部屋(「赤色のゾーン」)の入口、または傾斜路の下で終わりにし、ロボットが何らかの搜索手段を使って、**最後の部屋にいる被災者**および最後の部屋の出口と出口に向かう道を見つけなければならないようにしてもよい。

被災者は**最後の部屋**のフロア上のどこに置いてもよいが、最も近くの壁から 10cm 以上離れた位置に置かなければならない。

**1.6.2. 最後の部屋の入口には 25mm × 250mm サイズの反射する銀のテープが貼られる。**

**1.6.3. 避難場所は最後の部屋の角の1つに設置される。避難場所は黒色で 300mm × 300mm の正方形を半分にした直角三角形とする。**

1.6.4. セカンダリの避難場所は 300mm × 300mm の正方形を半分にした直角三角形で高さが 60mm とし、黒色に塗られる。

1.6.5. 最後の部屋は入口のみとし、被災者を避難場所に運び終わるとゴールとする。

## 1.7. 被災者

1.7.1. 「被災者」は最後の部屋に1つだけ置く。

1.7.2. 被災者は 375ml の缶ジュースの缶で、150g の重りを入れる。

1.7.3. 被災者はアルミホイルで表面を覆われる。

## 1.8. 照明と磁気状況

1.8.1. 各チームは会場の照明条件に合わせてロボットを調整できるように準備してくること。

1.8.2. レスキューアリーナのコースを進んでいくにつれて照明条件が変化することがある。

1.8.3. 実行委員は、磁場の影響を受けないように、床下の配線や金属などから離れた位置にレスキューアリーナを設置する努力をできる限り行う。

しかし、時には磁場の影響を避けられないこともある。

**アドバイス:** 照明条件や磁気条件は会場によって異なるため、各チームは条件の変化に対応できるようにロボットを設計しておくことが望ましい。

各チームは会場の条件に合わせてロボットを調整できるように準備しておくこと。

## 2. ロボット

### 2.1. ロボットの制御

2.1.1. ロボットは自律制御型であること。

2.1.2. ロボットはチームメンバーが手動でスタートさせること。

2.1.3. ロボットを手動で制御するためのリモートコントロールを使用してはならない。

2.1.4. 同じフィールド上のロボット同士は Bluetooth Class 2 規格の無線で通信してもよい。それ以外の無線通信はしてはならない。

ロボット内に他の無線通信用のモジュールが組み込まれている場合、それが競技中に使用されないとしても参加資格を失うかもしれない。

### 2.2. ロボットの構造・組立

2.2.1. ロボットが上記規定を満たしており、かつチームメンバーが主体となり、ほぼすべてを独自に設計し組み立てている限り、市販のものであれハードウェア素材を組み立てたものであれ、どのようなロボット・キットやブロックを使用してもよい(下記 2.4 を参照)。

2.2.2. 市販のキットで特に「ライトレースロボット」や「レスキューロボット」として販売されているものはメカニカルデザインとソフトウェアの両方に重要な変更がなされていない限り失格となる可能性がある。

商品がルールに沿っているか不明な場合、参加者は RCJ-2010 レスキュー技術委員会に競技会の数ヶ月前までに連絡し、確認すること。

主催者側は質問に対しプライバシーを守り、第三者には内容を漏洩しない。

### 2.3. チーム編成

2.3.1. どの試合も、自律的に作業を行うロボット 1 台を配置して行う。(国際競技によっては、このルールが変わることもある。たとえば、2 台以上のロボットを配置し、2 台が協力して作業を遂行しなければならないこ

ともある。その大会の細則を確認すること。)

## 2.4. 検査

2.4.1. 審判団は競技会開始前や競技中の別の時間に参加チームのロボットを検査し、ロボットが上記規定を満たしたものであることを確認する。

2.4.2. 競技会の最中にロボットに変更を加えた場合、チームはすみやかに審判団に再検査を申し出なければならない。

2.4.3. チームメンバー自身がロボットの組立とプログラミングを行なったことを証明するために、チームメンバーは自分たちのロボットがどのように動くかを説明することを求められる。

2.4.4. チームメンバーは、ロボカップジュニア参加のために、どのような準備努力をしたかについての質問に答え、また、リサーチのためのアンケート調査やビデオ録画によるインタビューにも応じること。

## 2.5. 違反

2.5.1. 検査ルールに違反している場合は、そのロボットの違反箇所が修正されるまでそのロボットは競技に参加できない。

2.5.2. 但し、ロボットの修正は競技スケジュールを乱さないように行なわれるものとし、修正中であってもチームは試合時間に遅れてはならない。

2.5.3. (修正したにもかかわらず)ロボットが全ての規定を満たすことができない場合、そのロボットはその試合の参加資格を失う(但し、競技会への参加は可)。

2.5.4. 指導者の援助・助言が過剰な場合や、ロボットが実質的にチームメンバー独自の作品ではないと判断された場合、そのチームは競技会の参加資格を失う。

## 3. 競技

### 3.1. 試合前の調整

3.1.1. 参加チームは競技中、**可能であればいつでも**練習用アリーナで、調整、試験、チューニングを行なうことができる。

3.1.2. 参加チームが自分の試合前に競技用アリーナで少なくとも2分間のセットアップをできるように、実行委員はあらゆる努力をする。

**アドバイス:** 但し、参加チームは上記の条件が与えられない状況が発生することも考えて、理想とは言えない状況にも対応できるように準備して来ること。

**3.1.3. 主催者が認めた場合、競技用アリーナを使って調整を行ってもよい。**

### 3.2. 競技時間

3.2.1. 競技時間は最大8分とし、8分以内にロボットはコースを完了すること。競技時間は審判が計測する。

### 3.3. 競技開始

**3.3.1. まず始めに、スタート地点のタイル(最初の部屋で審判が指定した場所)にロボットが置かれる。**

3.3.2. スタート時間に遅れたチームはその試合は失格となる。スタート時間は会場にはっきりとわかるように掲示される。

### 3.4. チームメンバー

3.4.1. 原則としてチームメンバーがロボットを動かすことは認められない。

3.4.2. 審判の指示があった場合に限って、チームメンバーはロボットを動かすことができる。

3.4.3. 各試合開始前に、チームは「キャプテン」を指名する。キャプテンだけが、規定のルールおよび審判の指示に従って、ロボットを動かすことができる。

3.4.4. レスキューアリーナの近くにいる他のチームメンバー(観衆も含まれる)は、審判が特に指示しない限り、ロボットが動いている間はアリーナから少なくとも 150cm(約 60 インチ)以上離れて立っていなければならない。

### 3.5. 得点

3.5.1. ロボットは黒いラインがある場所では、黒いラインに沿って進むように試みなければならない。

3.5.2. ロボットは黒いライン上にある切れ目をうまく通り抜けて進み続けることができた場合、切れ目一つにつき 10 ポイントが与えられる。

3.5.3. ロボットは黒いライン上に置かれた大きな障害物をうまく避けることができた場合、障害物一つにつき 10 ポイントが与えられる。

3.5.4. ロボットは1つのタイル内の黒いライン上に置かれた、1つもしくは複数の減速バンプをうまく乗り越えられた場合、5 ポイントが与えられる。

3.5.5. ロボットは一方の出入口から部屋に入り、持ち上げのペナルティを受けることなくもう一方の出入口から部屋を出ることができた場合、50 ポイントが与えられる。

持ち上げのペナルティを受けても、再びその部屋に入って来た場所からスタートして(下記 3.6.3 を参照)、もう一方の出入口から部屋を出ることができた場合には得点となる。

3.5.6. ロボットは自力で傾斜路を進み終えた場合、20 ポイントが与えられる。

3.5.7. ロボットが競技進行停止となった場合(下記 3.6 を参照)、停止になるたびに 15 ポイント減点される。

3.5.8. ロボットが被災者を救出した場合、50 ポイントが与えられる。

レスキューA プライマリでは被災者を完全に避難場所に運んだところで、完了とする。

レスキューA セカンダリでは被災者を持ち上げ、避難場所に載せたところで、完了とする。

3.5.9. 得点が同点となった場合は、それぞれのロボット(またはロボットのチーム)がコースを完了するのに要した時間で勝敗が決められる。

### 3.6. 競技進行の停止

3.6.1. ロボットが 20 秒を超える時間にわたって、同じ場所で立ち往生したり黒いラインから逸れた場合、競技の進行が停止される。

3.6.2. ロボットがラインを見失ったり、障害物に適切に対応できなかつたりした場合、その部屋のスタート地点に戻される(そして 15 ポイント減点される)。

同じ部屋で3回、競技進行の停止となった場合、チームキャプテンはその部屋の出口にロボットを動かすことを選ぶことができる。

3.6.3. ロボットの故障が原因で競技進行が停止した場合、チームはその試合を所定の時間より早く終わらせることができる。その場合は、チームのキャプテンが競技を終えたいというチームの意向を審判に告げなければならない。チームには、その時点までに獲得した全ての点数が与えられる。

## 4. 問題が発生した場合の対処

### 4.1. 審判

4.1.1. 試合中は審判の判定が最終判定となる。

## 4.2. ルールの説明

4.2.1. ルール解釈についての説明は、ロボカップジュニア国際レスキュー技術委員会(テクニカル・コミッティ)が行う。

## 4.3. 特別措置

4.3.1. チームのロボットに予想外の問題が発生した場合やロボットの能力が予想外であった場合などの特殊な状況に対応するため、競技中、合意によって規定ルールを特別に変更することがある。但し、こうした変更は競技参加者の過半数の合意が得られた場合に限る。

## 5. 文書による発表

### 5.1. レポート

5.1.1. 各チームは自分たちのロボットの設計、組み立て、プログラムについて記した電子媒体のプレゼンテーション資料(パワーポイント、PDF、または Flash フォーマットのファイル)とポスター(約 A3 サイズ)を持ってこなければならない。

5.1.2. プレゼンテーションとポスターはインタビュースケジュールの時に審判に示した後、他のチームメンバーおよび一般の観客に見せることとする。

5.1.3. プレゼンテーションはチームについての情報、およびロボカップジュニア参加のためにチームがどのような準備をしてきたかを伝えるものでなければならない。プレゼンテーションには、下記のような項目を含めるとよい。

5.1.3.1. チーム名

5.1.3.2. 参加部門(プライマリまたはセカンダリ)

5.1.3.3. チームの各メンバーの氏名と(できれば)チームメンバー全員を撮った1枚の写真

5.1.3.4. チームがどの国のどの地域から来たのかを示す情報

5.1.3.5. チームが所属する学校名と地区名

5.1.3.6. ロボットが出来上がるまでの過程を示す写真

5.1.3.7. ロボットとチームに関する情報(回路図、機械設計図、コードの一部など)

5.1.3.8. チームのロボットの興味深い機能あるいは特異な機能

5.1.3.9. チームがロボット工学で実現したいと思っていること

5.1.4. 審判はプレゼンテーションを審査し、その内容についてチームメンバーと話し合う。

5.1.5. 競技参加者は、プレゼンテーションとポスターの電子媒体を提出しなければならない。

5.1.6. 優れたプレゼンテーションを行ったチームには賞が与えられる。

### 5.2. 共有

5.2.1. 各チームは互いに他チームのプレゼンテーションやポスターを見学することが望ましい。

## 6. 行動規範

### 6.1. フェアプレイ

6.1.1. レスキューアリーナに故意に損傷を与えたり、繰り返し損傷を与えるロボットは失格とする。

6.1.2. 故意にロボットを妨害したり、レスキューアリーナに損傷を与えるチームメンバーは失格とする。

6.1.3. すべてのチームがフェアプレイを目指して競技に参加することを期待する。

## 6.2. 競技場での態度

6.2.1. 競技会場では常に落ち着いた行動や態度を取ること。

6.2.2. 参加者は他リーグや他チームのメンバーから特に要請や招きがない限り、彼らのセットアップエリアに立ち入ってはならない。

6.2.3. 態度や行動に問題がある参加者は会場建物からの退去を要求されることがあり、また、競技会参加資格を失うことがある。

6.2.4. 上記の規則は審判、大会役員、大会実行委員、現地の法執行当局の判断で執行される。

## 6.3. 指導者(メンター)

6.3.1. 指導者(教師、父兄、保護者、その他大人のチームメンバー)はチームの作業エリアに入ってはならない。

6.3.2. チームの作業エリア周辺に十分な席を設けて、指導者が監督の立場で留まることができるようにする。

6.3.3. 指導者はロボットの修理をしてはならない。またチームロボットのプログラミングに関わってはならない。

6.3.4. 指導者がロボットや審判の判定に干渉した場合、それが初めてである場合は警告が発せられる。そうした干渉が再び行なわれた場合、そのチームは失格になることがある。

## 6.4. 情報の共有

6.4.1. ロボカップ大会では競技に関連する技術開発やカリキュラム開発についての情報を競技終了後、他の参加者と共有することが共通の理解となっている。

6.4.2. 開発された技術やカリキュラムを大会終了後にロボカップジュニアのウェブサイトで公開することもある。

6.4.3. こうした情報の共有は、「教育的なイニシアチブとなる」というロボカップジュニアの基本理念を推し進めるものである。

## 6.5. 精神

6.5.1. すべての参加者は(チームメンバーも指導者も)、ロボカップジュニアの基本理念を尊重するものとする。

6.5.2. 審判および大会役員は大会の精神に則って行動する。

6.5.3. 大切なのは「勝ち負け」ではなく、ロボカップジュニアの活動や経験を通して「どれだけ多くのことを学ぶか」である。